

1日目

◎トークセッション

# 「福島の経験を継承する」



1日目のトークセッションでは、経験継承に取り組む7人のお話を伺い、その後コメントーターの2人からコメントがありました。

●日 時：2023年1月21日(土)14:00-16:30

●会 場：いわき湯本温泉「古滝屋」(原子力災害考証館 furusato)

●参加者：会場・53名(マスコミ含む) オンライン・196アクセス(138名)

◎パネリストより◎



内山 大介さん  
(福島県立博物館)

福島県立博物館の活動は、震災以後、文化財のレスキューから、震災を物語る様々な資料を未来に引き継ぐ「震災遺産」として収集することへと展開してきました。収集に携わった個々の学芸員のメッセージも重視してきました。今後は我々が一方的に発信するというよりは、皆が震災遺産から多様な経験や記憶を想起し、語り合う博物館になればと思います。



筑波 匡介さん  
(福島県立博物館)

震災遺産を活用した、会津若松地域(県博所在地)の防災教育に携わっています。重要なのは子どもたちが目の前の資料から主体的に考え判断できるようになること。授業では震災遺産をめぐり、よい「問い合わせ」を投げかけ創造的な対話がなされることを目指しています。「問い合わせ」と「震災遺産」の組み合わせは、災害伝承の持続可能性の獲得にもつながると考えています。



門馬 健さん  
(とみおかアーカイブ・ミュージアム)

とみおかアーカイブ・ミュージアムでは、自然災害・原子力災害を富岡町の歴史にきちんと位置づけるために、震災以前の町の日常や成り立ち、特徴、原発がもちこまれた経緯が分かるように展示をつくっています。震災関連の展示では、資料の背景情報をつまびらかにしており、そこから引き出す震災の教訓に関しては、来館者それぞれの解釈に委ねています。



瀬戸 真之さん  
(東日本大震災・原子力災害伝承館)

伝承館は、地震発生時の状況から、復興の取り組みまでを6部構成で伝えていますが、状況の変化に応じて展示替えもしています。また、特定の地域に焦点をあてたり、県外に出張したり、子ども向けに絵本を活用したりと、様々な企画展示もしています。速報性重視の観点から、避難指示が解除された直後に、その地域の震災後の歩みや現状を取り上げています。



里見 喜生さん  
(原子力災害考証館 furusato)

震災の経験でも、特に原子力災害では声にならない声が多くあることに気づき、様々な立場の人が対話できる民の施設をつくろうと思いました。自分も展示をつくってみたいと思ったとの来館者の声がありましたが、各人がちょっとしたスペースに資料を残していく取り組みが広がり、そこにつながりが出来るといいのではないかと思います。



小野 陽洋さん  
(いわき語り部の会)



木村 紀夫さん  
(大熊未来塾)

大熊町の自宅が津波で流され、家族を失った経験を経て、伝承活動をしています。活動のテーマは①「防災」と②原発事故などの犠牲の上で成り立っている「豊かな世の中への問い」です。講演・講話だけでなく、震災の痕跡が残る場所の案内もしながら、参加者が震災経験を自分事にしていくことを目指しています。活動継続のための課題に悩みつつ、地域の復興のあり方についても考えています。

◎コメントーターより◎

公害として福島原発事故を考えるには、加害一被害、特に放射能汚染を人権や社会的公正の問題としてみる視点が重要です。

復興も、将来世代にどのような暮らしを手渡すかという長期的視野が必要です。



藤原 遥さん  
(福島大学)

公害の経験を継承するには、多視点性や問い合わせ重視してお互いに学びをつくっていく必要があります。それぞれのやり方で活動をされている皆さんに学びたいと思います。



林 美帆さん  
(みずしま財団)